

皆さんの「声」を聞かせてください！

鶴の里まちづくりミーティング



△水元中央小学校で行われた同小5年生とのまちづくりミーティング

顔と顔を合わせて

町民の皆さんの声を聞く

当町では広聴活動として、町政に対する意見や要望を常時受け付けています。

平成28年度からは、町内で活動する団体を対象に「鶴の里まちづくりミーティング」を実施しています。

まちづくりミーティングは、相川町長や担当課長が各種団体を訪問し、所属する団体の活動に関する思いや課題についてお話を聞くほか、まちづくりに関する意見や要望を直接伺い、回答をします。

これまでいただいた意見や要望をもとに、町では、SNS等の情報発信数の向上や、学校給食への米粉パンの導入、米粉パンと相性の良い献立の見直しなどに取り組んでいます。

※SNS：ソーシャルネットワークキングサービスの略で、インターネットを利用したコミュニケーションサービスのこと。

話しやすい環境で

リラックスして懇談

鶴の里まちづくりミーティングの特徴は、参加者が話しやすいような環境です。その一つが開催する場所であり、参加者がリラックスして発言しやすいように、一般的な会議室ではなく、

サクランボ畑や学校、町歴史文化伝承館など、参加団体が普段活動している場所を使って行っています。

また、参加者も1団体約10人前後と少人数で行うため、緊張せず、気軽に語り合える場になっています。

テーマを決めてさまざまな団体とミーティング

平成28年度は、JAつがるにすぎた農産物直売コーナー友の会、町商工会青年部、つるた街プロジェクト、鶴田中学校生徒会の4つの団体を対象に行いました。今年度は、水元中央小学校5年生児童、鶴の舞橋観光ガイド、町食生活改善推進協議会

の3団体とのミーティングを開催しています。

鶴の里まちづくりミーティングは基本的にテーマを決めて行います。話し合うテーマも団体の活動分野によりさまざまで、農業に關係する団体であれば町の農業施策や農業の活性化、健康に關係する団体では、食育や健康長寿について意見を伺っています。日頃、専門的な分野で活動している団体から直接かつ具体的に現場の声を聞けることも、まちづくりミーティングの特徴の一つといえます。

今後とも町民の「声」としてさまざまな町の団体から意見・要望を聞き、まちづくりに反映させるため、鶴の里まちづくりミーティングを続けていきます。



△友の会の皆さんとサクランボ畑で懇談



△町歴史文化伝承館では観光ガイドの皆さんと懇談

まちづくりミーティング参加団体にインタビュー



食生活改善推進協議会
木村 夢知子 会長

内容の深い話し合いができたことは大きな収穫

私たちとしては現場の声を聞いてもらいたいので、団体ごとに日頃の活動で感じていることを話す場を設けてもらえることは大変うれしいです。

大きい会場で発表するのとは違い、自分たちの活動している身近な場所で、仲間同士で行うので、緊張することなく話しやすかったです。近い距離で話せたことで親近感も湧き、顔と顔を合わせて町役場の皆さんと話し合うことができました。

テーマを決めて行ったことで、発言もしやすく、細かい話もできて内容も深まったと思います。今回参加した私たちも日頃の活動を振り返り、それを意見や要望として伝えることができたので、自分たちの今後の活動に生かせていけると思います。



つるた街プロジェクト
岡 詩子 代表

まちづくりミーティングに興味を持ってほしい

参加者がたくさんいる会議だと、周りの人の反応を気にして自分の意見を出しづらくなりますが、少人数制で行う方法は良いと思います。自分たちの活動に関係したテーマで進めていくので話しやすかったです。このように、町で活動する団体と役所がコミュニケーションをする機会が多い方が良いと思います。

一度まちづくりミーティングをやった団体でも、時間が経てば聞ける話が違うので定期的に行ってほしいです。また、まちづくりミーティングで出た意見や要望、それらを反映できた取り組みがあれば、お知らせしてほしいです。それを見て、他の団体も「私たちもやってみたいな」という気持ちを持ってくれたら良いと思います。



まちづくりミーティングで出されたご意見・ご要望（一部抜粋）

- 町の農業大学講座で直売所に出すためのやり方や仕組み、売り上げにつながるような講座を開催してほしい。
- 高齢化によりビニールハウスを手放したい農家がいる。自分で処分するよりも欲しい人がいたら譲りたいという人がいる。そのようなことを町で情報発信できないものか。
- 鶴の舞橋でのイベントは、桜まつり、花火大会、キャンドルナイトしかないのもったいない。
- スチューベンのブランディングが大事。例えば意識的に口コミで広めていくこと。「鶴田町＝スチューベン」というのが、パツと思ひ浮かぶようなイメージを植え付けられればいい。まずは町民からしつこいくらいにスチューベンという単語、物を出していく気持ちが大事だと思う。
- 町のホームページや観光ウェブマガジン「メダタイツルタ」、ツイッター等のSNS系の情報源を上手く活用

- して多角的に情報を広めていけばいいと思う。
- 給食が毎日米飯であることに不満が出ている。週に1回、または月に2、3回でもメニューを変えてほしい。
- 味噌汁以外のスープが飲みたい。ミネストローネやシチューなどパンに合うおかずの日が欲しい。
- 鶴の餌やり体験ができたり、鶴をモチーフにした料理のレストランがある「鶴田館」や鶴の舞橋の真ん中で、小さなカフェを営業してみてもどうか。
- 鶴の里ふるさと館を改築して宿泊施設にしてみてもどうか。古い建物だからこそ人気が出ると思う。
- 富士見湖パークの駐車料金・鶴の舞橋の通行料を徴収してみてもどうか。
- 町の飲食店のグルメマップを製作してほしい。
- 健診時の朝食を味付けの基準にしている町民もいる。町民の健康づくりへの意識も向上している。
- 子どもたちに朝ごはんをきちんと食べさせてくれるように子どもの親に伝えたい。